

「未来の学術振興構想」の策定に向けた
「学術の中長期研究戦略」の公募について

日本学術会議科学者委員会
学術研究振興分科会

1. 未来の学術振興構想の背景と目的

日本学術会議においては、昨年4月に取りまとめた「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」(第182回総会決定)で示された改革の方向性を具体化すべく、現在、様々な取組を進めております。中でも、取組の柱の一つに掲げられた科学的助言機能の強化については、独立した立場からより広い視野に立った社会課題の発見や中長期的に未来社会を展望した対応の在り方についての提案に対する社会の期待に応えるべく、特に「中長期的視点と俯瞰的視野と分野横断的な検討」を重視した見直しを行ってまいりました。

また、日本学術会議を取り巻く社会の状況を見渡せば、気候変動やカーボンニュートラルを始めとするサステナビリティへの取組に対する関心の高まり、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大への社会の対応等に見られるように、国民生活における学術や科学技術への期待や関心、学術と行政との関わり等にも様々な変化が生じております。

こうした中、日本学術会議では、第21期以降、学術的意義の高い大型研究計画を広く網羅的に体系化する「マスタープラン」を期ごとに策定し、各学術分野における活発な議論を通じて我が国の学術の強化・発展に寄与してきました。しかしながら、前述のようなこの間の社会環境の変化に加え、日本学術会議の存在や役割について社会が注目する中、自らも科学的助言機能の強化に関して見直し新たな仕組みに移行しつつある状況や、分野横断や学際的な取組が不十分、中長期的な視点の欠如、分野の偏りがあるのではないかな等の内外の様々な意見も踏まえ、今期においては、従来の「マスタープラン」は策定しないこととし、新たに「未来の学術振興構想」を策定することといたしました。

「未来の学術振興構想」では、今後20～30年頃まで先を見通した学術振興の「グランドビジョン」を複数提示し、それぞれの「グランドビジョン」について、その実現の観点から必要となる「学術研究構想」を示すことを目指しております。未来を見据えて学術研究を振興し、人類社会に貢献していくためには、多様な分野や視点に基づく科学者コミュニティからのボトムアップを重視し、周到な議論と準備を通じて、学術研究の中長期的「グランドビジョン」を明確化し、その実現に必要な「学術研究構想」を具体化していくことが不可欠です。

そのため、学術振興の「ビジョン」(「グランドビジョン」と区別するため単に「ビジョン」とする。以下同じ。)と「学術研究構想」からなる「学術の中長期研究戦略」の提案を広く募り、純粋に学術的な見地から、検討・審査・評価を通じて、分類・グループ化等することにより、日本学

術会議として、今後 20～30 年頃まで先を見通した学術振興の「グランドビジョン」を提示し、その「グランドビジョン」実現に必要な「学術研究構想」をリストアップすることといたしました。

なお、「未来の学術振興構想」は、政府の予算への直接の反映等を意図するものではないことを申し添えます。

2. 「学術の中長期研究戦略」の公募

別添の『「未来の学術振興構想」の策定方針について』（注1）に従い、「学術の中長期研究戦略」を公募します。「学術の中長期研究戦略」は、専門的な知見に根差した今後 20～30 年先を見通した学術振興の「ビジョン」と、その実現のために今後 10 年程度で実施することが必要な「学術研究構想」から構成されます（注2）。本戦略の提案については、科学者コミュニティから積極的に御提案いただきたいと考えておりますが、特に複数の研究コミュニティが連携した複合的な「ビジョン」・「学術研究構想」、人文・社会科学分野が中核的に関わる「ビジョン」・「学術研究構想」の提案を期待しております。

応募いただいた提案は、日本学術会議科学者委員会の学術研究振興分科会等において一定の絞り込みを行った上で、分類・グループ化し、最終的に、20～30 程度の「グランドビジョン」とその実現に必要な「学術研究構想」をリスト化した「未来の学術振興構想」として取りまとめ、公表します。

3. 公募の対象

公募の対象は下記のとおりです。

- ① 「学術の中長期研究戦略」の公募の対象は、専門的な知見に根差した今後 20～30 年先を見通した学術振興の「ビジョン」と、その実現のために今後 10 年程度で実施することが必要な「学術研究構想」から構成されます。
- ② 「学術研究構想」は、複数の学術分野に関わる提案や複数の学術分野に裨益することが想定される提案を推奨します。また、個別の学術分野のみに関わる研究については、「ビジョン」が明確で分野に変革をもたらすような先鋭的な提案を推奨します。
- ③ 「学術研究構想」は、「研究計画」又は「施設計画」のいずれかとし、それぞれの規模については、以下のとおりです。
 - i. 「研究計画」：科学研究費補助金等で実施困難なものであることを前提とするが、特に予算総額の下限は定めない（調査の継続期間等の予算以外の要因で“実施困難”な計画も含む）。
 - ii. 「施設計画」：国策としてトップダウンで整備する施設との区別を明確にす

るため、予算総額（国際共同事業については国内負担分）については概ね 2000 億円を上限とするが、特に下限は定めない。

- ④ 「研究計画」及び「施設計画」については、③に加え、以下の要件に合致するものとします。
- i. 「研究計画」については、「ビジョン」に立脚した「研究計画」であって、学術分野の重要課題について、長期間にわたって多くの研究者が参画し、観察、観測、調査、研究を推進する、あるいは大規模なデータ収集のための長期的実施体制やデータベースを構築し、その効果的な利用を推進する等、大きな規模の計画的研究の展開によって新たな知を創造する計画であることが必要です。
 - ii. 「施設計画」については、「ビジョン」に立脚した施設計画であって、最先端の研究を拓くことを目的として、多くのコミュニティの研究者が共同して利用・研究するための施設、及びそれに付随する装置や設備に関する建設・整備・運用計画であることが必要です。
- ⑤ 「学術研究構想」は、分野融合の提案（特に文理にまたがる提案）を歓迎いたします。また、「学術研究構想」に含まれる「研究計画」及び「施設計画」においては、人材育成（若手育成）と実施体制におけるダイバーシティの観点を含めてください。

4. 提案者

「学術の中長期研究戦略」の提案は、(i) 研究・教育機関の長又は部局長（国公立大学、大学共同利用機関法人、研究開発法人）、(ii) 学協会長、(iii) 日本学術会議の会員及び連携会員、(iv) 若手研究者（令和 5 年 3 月 31 日の時点で満 45 歳以下の者（※）であって、所属部局長の承認を得て、かつ、日本学術会議の会員又は連携会員 3 名以上（会員 1 名を含むこと）の推薦がある者に限る。）

ただし、(i) 及び (ii) は最大 3 件まで、(iii) 及び (iv) は 1 件のみ、それぞれ提案することができます。

また、選考の公平性を確保するため、提案者が、その当該提案の審査・評価に関与することはありません。

※ただし、産前・産後休業又は育児休業を取得した者については、満 45 歳以下の制限にその日数を加算することができます。

5. 公募期間

令和 4 年 6 月 30 日(木)～令和 4 年 12 月 16 日(金)

【意向表明のお願い】

「学術の中長期研究戦略」の提案を考えられている方は、令和4年10月21日(金)までに、以下のURLにより事前の情報提供をお願いいたします。また、若手研究者についてはこの時点での所属部局長の承認は不要です。

なお、情報提供の有無は審査には一切影響はございません。

※意向表明用 URL: <https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0190.html>

<情報提供事項>

- ・「学術の中長期研究戦略」の名称(日本語のみ、仮題で可)
- ・提案予定者の氏名、所属機関、役職等
- ・提案分野【人文・社会科学、生命科学、理学・工学、分野融合※】
※前記3分野のうち、2分野以上にまたがるもの。
- ・提案の要旨(可能な範囲で可)

6. 応募方法

提案に当たっては、URL : <https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0193.html> の様式に従い提案書を作成し、ウェブを通じて応募を行ってください。なお、今回使用している内閣府のシステムには、応募を受け付けたことを電子メールで通知する機能はありません。そのため、投稿後直ちに受領のメールが皆様に届くことはありません。その代わりに、提案者から頂いた応募データを事務局が処理をして、個別に受領したことをお伝えするようにいたします。全体の応募件数にもよりますが、原則として、応募受領後2日以内(土日、祝日を除く)に受領メールをお送りします。

7. 提案書の記載内容

記入項目、内容、分量等の詳細については、上記様式を参照してください。

8. 説明会の開催

令和4年7月15日(金) 17時~18時に公募説明会(オンライン開催)を実施いたしますので、下記のURLよりご登録下さい。

※登録 URL: <https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0191.html>

9. ご質問、お問い合わせ

本件に関するお問い合わせは、下記フォームでお問い合わせください。

日本学術会議事務局審議第二担当

<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0189.html>

また、多数の方から質問があったものについては、FAQ を日本学術会議のウェブサイト内に順次用意しますのでご覧ください。

10. その他

「未来の学術振興構想」に掲載することになった「学術研究構想」については、日本学術会議が意思の表出（提言、報告等）をするための資料や、英文説明資料を作成していただくこととなりますので、よろしくお願いいたします。

なお、審査の透明性担保の観点から、「学術研究構想」の審査結果については、原則として日本学術会議のウェブサイト上で公表する予定です。

(注1)「未来の学術振興構想策定方針について」

(注2)「未来の学術振興構想」の全体像のイメージ

URL : <https://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/kenkyukeikaku/25koubo.html>